

資料編

●用語解説（五十音順）

あ行

IOT（アイオーティー）

「Internet of Things」の略。モノのインターネットと訳される。様々なモノがインターネットに接続され、情報交換することによって相互に制御する仕組み。

ICT（アイシーティー）

「Information and Communication Technology」の略。情報通信技術のこと。インターネットなどの情報技術を活用して、様々な人やモノをつなげていく技術。

一斉林（いっせいりん）

同じ林齢の樹木から構成される森林。一般に皆伐跡地に同一樹種を一斉に植林してできる。単層林ともいう。

入会地（いりあいち）

特定地域の住民の団体が共同利用を営む特定の山林原野。

裏木曾（うらきそ）

岐阜県南東部地域で、東濃地域東部の通称。阿寺山地の西側にあたる地域。

AI（エーアイ）

「Artificial Intelligence」の略。人工知能のこと。

SDGs（エスディー・ジーズ）

「Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）」の略。平成27年（2015）の国連サミットにおいて採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に記載された、2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標。17のゴール・169のターゲットから構成される。SDGsは発展途上国のみならず、先進国自身が取り組むユニバーサル（普遍的）なものであり、日本も積極的に取り組んでいる。

FSC®（エフエスシー）

持続可能な森林活用・保全を目的に「適切な森林管理」を認証する国際的な制度の一つ。平成5年(1993)に発足した世界的組織である「Forest Stewardship Council（森林管理協議会）」が運営する。FSC®C004268

枝打ち（えだうち）

節のない材を得るため、樹木の生育過程において不要な枝を切り落とすこと。

枝払い（えだばらい）

伐採した樹木の枝を幹から切り離して丸太を仕上げること。

か行

階層構造（かいそうこうぞう）

森林などの植物群落において葉層の垂直的な階層が形成される構造。森林では、高木や低木、地表付近の植物といった様々な高さの植物が階層的に存在し、上層の高木層、その下の低木層、さらに下の草本層といった階層構造を形成する。

皆伐（かいばつ）

ある範囲内の樹木を一時に全部または大部分を伐採すること。

下層植生（かそうしょくせい）

森林において、上層を形成する樹木の下層に生育する低木や地表付近の草本類からなる植物のまとまり。

間伐（かんばつ）

植林された樹木の一部を伐採し、樹木相互の競争を管理し、直径成長の目的に合わせて密度を調整するために実施する作業。

間伐率（かんばつりつ）

間伐の実施にあたって、実施後の目安として設定する数値。1ヘクタールあたりの立木の本数（本数間伐率）または立木の材積（材積間伐率）で表現する。

官民区分（かんみんくぶん）

森林の所有区分。「官」は国が所有する「国有林」、「民」は自治体が所有する「公有林」と個人や会社などが所有する「私有林」に区分される。

強間伐（きょうかんばつ）

強度間伐。本数間伐率で40%以上の間伐などで、明確な定義はない。施業不足などで立木の密度が過密になった森林において実施する間伐。なお、強間伐は風害などを招く可能性があるため、慎重に実施することが求められる。

切捨間伐（きりすてかんばつ）

森林の手入れを目的とした間伐であり、伐採した材は搬出せずに林内に据え置き、土留めなどに利用する。材の大きさや品質から採算性が見込めない場合に実施する。

クラウド

「クラウド・コンピューティング」のこと。ユーザーが大がかりなインフラやソフトウェアを持たなくても、インターネット上で必要に応じてサービスを利用できる仕組み。

グリーンインフラ

「グリーンインフラストラクション」のこと。自然環境が有する多様な機能を積極的に活用して、地域の魅力、居住環境の向上や防災・減災などの多様な効果を得ようとするもの。平成27年度(2015)に閣議決定された国土形成計画、第4次社会資本整備重点計画では、「国土の適切な管理」「安全・安心で持続可能な国土」「人口減少・高齢化等に対応した持続可能な地域社会の形成」といった課題への対応の一つとして、グリーンインフラの取組を推進することが盛り込まれている。

径級（けいきゅう）

木材の原木（一般に丸太を指す）のクラス分けのこと。末口径（樹冠に近い方の直径）が14cm未満のものを「小丸太」、末口径14cm以上30cm未満を「中丸太」、末口径30cm以上を「大丸太」または「尺上丸太」とよぶ。

溪畔林（けいはんりん）

河川上流域の谷底や谷壁斜面、溪流周辺に成立する森林で、主に落葉広葉樹からなる。

広葉樹林（こうようじゅりん）

森林の上層が広葉樹に構成されている森林。冬季に葉を落とす落葉広葉樹からなる森林を落葉広葉樹林、年中葉を付けている（落葉する時期のない）常緑広葉樹からなる森林を常緑広葉樹林という。

さ行

再造林（さいぞうりん）

造林して育成した人工林を伐採し、その跡地に再び苗木を植えて人工林をつくること。

作業道（さぎょうどう）

森林所有者や事業者などの特定の者が木材搬出や森林施業のために利用する道路。一般車両の通行は想定していない。通常、森林所有者や事業者によって整備され、維持管理される。

サプライチェーン

製品の原材料や部品の調達から、製造、在庫管理、配送、販売までの全体の一連の流れのこと。

下刈り（したがり）

植栽した苗木の生育を妨げる雑草や樹木を刈り払う作業。

植生（しょくせい）

地表面を覆う「緑の広がり」。ある地域に生育している植物の集団の状態をいう。また、同じ場所で一緒に生育しているひとまとまりの植物群を植物群落という。

GIS（ジーアイエス）

「Geographic Information System」の略。地理情報システムのこと。位置に関する情報を持ったデータ（空間データ）を総合的に管理・加工し、視覚的に表示するとともに高度な分析や迅速な判断を可能にする技術。

除間伐（じょかんばつ）

除伐と間伐のこと。

除伐（じょばつ）

植栽木の成長の障害を除去することを目的に、自然に侵入した不要樹種、植栽木の不良木や被害木を伐採すること。

神宮備林（じんぐうびりん）

伊勢神宮の式年遷宮用のヒノキの確保・育成を目的とした林及び指定された地域。

針広混交林（しんこうこんこうりん）

森林の上層において針葉樹と広葉樹が混生する森林。

人工林（じんこうりん）

人為を加えて成立した森林。植栽され、育成されたヒノキやスギの植林など。

人工林率（じんこうりんりつ）

ある一定地域内の山林において人工林が占める面積割合。

森林組合（しんりんくみあい）

森林組合法に基づき森林所有者が出資して設立した協同組合。森林所有者の森林経営のために、経営指導、施業の受託、共同購入、林産物の加工・販売など、組合員が共同で利用する様々な事業を行う。

森林法（しんりんほう）

明治30年（1897）に第1次、明治40年（1907）に第2次森林法が制定され、昭和14年（1939）の改訂を経て、昭和26年（1951）に現行のものが制定された。森林計画、保安林その他の森林に関する基本的事項を定め、森林の保続培養と森林生産力の増進を図ることにより国土の保全と国民経済の発展に資することを目的とする。

スマート林業（スマートりんぎょう）

森林施業の効率化・省力化や需要に応じた高度な木材生産を可能にするため、地理空間情報やICT、ロボットなどの先端技術を活用した林業。

生物多様性（せいぶつたようせい）

生きものたちの豊かな個性とつながりのこと。地球上の生物は40億年という長い歴史の中で、さまざまな環境に適応して進化し、3,000万種ともいわれる多様な生物が出現した。これらの生命はそれぞれに個性があり、全て直接的・間接的に支えあって生きている。生物多様性条約では、生態系の多様性・種の多様性・遺伝子の多様性という3つのレベルで多様性があるとしている。

成立本数（せいりつほんすう）

ある一定の範囲内において生育する樹木の本数。立木（りゅうぼく）本数ともいう。

草本類（そうほんるい）

草本植物。木本植物を除く維管束植物。木本植物は地上部が多年生存して繰り返し開花・結実し、幹が太く成長する植物。維管束植物は、シダ植物、裸子植物、被子植物からなる。

ゾーニング（森林のゾーニング）

森林の状況や特性、その取扱い方などについて地図上でいくつかの区域に区分すること。

遷移（植生遷移）（せんい（しょくせいせんい））

ある生物共同体が他の生物共同体に移り変わる過程のこと。植生遷移は植物群落の時間的な変化をいう。火山噴出物上などの全く新しい裸地上で始まる遷移を一時遷移、森林の伐採跡地などの土中に埋もれた種子や生き残った地中の根などから始まる遷移を二次遷移という。

造林（ぞうりん）

人為的な方法で、目的に合わせて樹木を植えること。広い意味では植栽、保育、間伐などの総称。

たけ

単層林（たんそうりん）

樹高がほぼ同じ高さの樹木から構成される森林。一斉林ともいう。

炭素吸収量、炭素貯蔵量（たんそきゅうしゅうりょう、たんそちょぞうりょう）

樹木（植物）は光合成により大気中の二酸化炭素を吸収して成長する。吸収した二酸化炭素は炭素となって樹木の幹や枝、葉、根に蓄えられる。樹木が吸収して蓄積する二酸化炭素の量は樹種や林齢により異なるが、例えば、林野庁の資料によると、適切に手入れされている36～40年生のスギ人工林は1ヘクタールあたり約302トンの二酸化炭素（炭素量に換算すると約82トン）を蓄えており、1ヘクタールが1年間に吸収する二酸化炭素の量は約8.8トン（炭素量に換算すると約2.4トン）と推定される。

地籍調査（ちせきちょうさ）

国土調査法に基づいて地方公共団体が実施するもの。土地の所有者、地番、地目及び境界を測量し、「地籍図」を作成する。

長伐期施業（ちょうばつきせぎょう）

大径材の生産などを目的として、標準的な伐期齢より高齢級を伐期とする施業。

デジタルデータ化（電子データ化）

紙媒体などの情報ではなく、コンピュータで使えるデータにすること。

天然林（てんねんりん）

人の手がほとんど加わらず、主として天然の力によって成立している森林。

天然更新の施業（てんねんこうしんのせぎょう）

人為的に苗木などの造林材料を外部から持ち込むことなく、自然に落下した種子など樹木の持つ繁殖機能を利用して後継樹を生育させ、材木の世代交代を図る施業。

留山制度（とめやませいど）

森林資源の保全や防災などの森林の多面的機能を保全する目的から、一定の山林の樹木の伐採などを禁じる制度。

な行

ナラ枯れ（ナラがれ）

ミズナラ、コナラなどのナラ類、シイ・カシ類などの樹木にカシノナガキクイムシ（体長5mm程度の甲虫）が穿入し、カシノナガキクイムシが媒介するナラ菌の感染によって、樹木の水を吸い上げる機能が阻害されて枯死に至る伝染病。ミズナラやコナラなどが集団的に枯損する現象が起きる。

二次林（にじりん）

人の手が入っていない原生林が伐採や山火事などによって破壊されたあと、自然または人為的に再生した林。

は行

伐期（ばつき）

伐採する時期。材木が成熟した時期や目標とするサイズに成長した時期。

ハーベスタ

林業では伐倒集材を行う林業機械の総称。

パワーアシストスーツ

人体に装着し、電気や人工筋肉などの動力を用いて人間の動きをサポートする装置。

表層崩壊（ひょうそうほうかい）

山腹斜面において、厚さ0.5～2メートル程度の地表面（表層）の土壌が崩落すること。

（参考 深層崩壊：表層崩壊よりも深部で発生し、表層だけでなく深層の地盤も崩落すること）

表土（ひょうど）

地表面の最も表層部にある土壌。落葉などによる有機物や土壌微生物を豊富に含み、植物に養分や水分を供給する土壌部分。

植栽の施業（しょくさいのせぎょう）

人為的に苗木など植栽し、材木の世代交代を図る施業。

複層林（ふくそうりん）

樹齢や樹高の異なる樹木により構成される森林。
（→ 一斉林、単層林）

フォワーダ

伐採後の集材作業を行う林業機械の総称。

腐植土（ふしょくど）

土壌微生物によって動物の死骸や落葉などの植物が分解されてできた有機物を多く含む土壌。

プレカット工場

建築現場で組み上げやすいように、あらかじめ木材の切断や接合部などの加工を施す工場。プレカットにより、現場での作業効率や加工精度の向上、廃材削減などに繋がる。

法正林化（ほうせいりんか）

計画に基づいて毎年一定量の木材を将来にわたって永続的に収穫できる森林を目標とすること。

保育施業（ほいくせぎょう）

植栽してから伐採するまでの間に対象樹木の生長を促すために行う施業。下刈り、つる切り、除伐、枝打ち、間伐など。

ま行

マツ枯れ（マツがれ）

主にマツノザイセンチュウがマツの幹に侵入することによりマツが枯れること。体内にマツノザイセンチュウ（線虫）が入ったマツノマダラカミキリ（甲虫）がマツの若枝の樹皮を食べ、樹皮の傷口からマツノザイセンチュウがマツの材の中へ侵入する。マツノザイセンチュウは材の中で移動しながら増殖して水分の通導を阻害しマツを枯らしてしまう。マツノマダラカミキリはマツの材の中で卵から幼虫、蛹へと成長し、春から初夏にかけて羽化する。その時に材の中のマツノザイセンチュウはマツノマダラカミキリに寄生し、別のマツへと移動する。このようなサイクルによって、マ

ツ枯れが集団的に発生する。

未立木地（みりゅうぼくち）

伐採跡地以外の樹木が生立していない林地。

民有林（みんゆうりん）

国が所有する国有林以外の森林。民有林は、県や市町村が所有する公有林と個人や企業が所有する私有林に分けられる。

や行

UAV（ユーエーブイ）

「Unmanned Aerial Vehicle」の略。ドローンなどの無人航空機。

ら行

利用間伐（りょうかんばつ）

間伐で伐採したスギやヒノキを木材などに有効利用するもの。

林床（りんしょう）

森林内の地面と接しているところ。地表面。

林道（りんどう）

木材などの林産物の搬出や林業経営に必要な資材を運搬するために森林内に開設された道路の総称。

林道密度（りんどうみつど）

林道の延長を関係する森林の面積で割った値（m/ha）。haあたりの距離で表現する。

林分（りんぶん）

森林を構成する樹種や林齢、森林の構造などがほぼ一様で、隣接する森林と区別できる条件を備えた森林。

齢級（れいきゅう）

森林の年齢（林齢）を5年単位で区分したもの。林齢1～5年生までは1齢級、林齢6～10年生までは2齢級となる。

レーザー測量（レーザーそくりょう）

レーザーキャナから対象物にレーザー光を照射し、対象物から反射するレーザー光などから情報を得る測量方法。航空機やドローンにレーザーキャナを搭載して行う航空レーザー測量では詳細な標高や地形、樹高などのデータが得られ、森林内の地上レーザー測量で樹木の樹高や

直径、形状などのデータが得られる。

路網（ろもう）

森林の管理や整備、林産物の搬出など、森林へのアクセスに利用される道路のネットワーク。

「測量法に基づく国土地理院長承認（使用）R 3JHs 43」

「測量法に基づく国土地理院長承認（複製）R 3JHf 15」

「本製品を複製する場合には、国土地理院の長の承認を得なければならない。」